



みんなで作ろう！ようかいちのまち

八日市まち協だより

NEW
八日市
コミセンHP



第62号
令和4年3月発行

災害への備え 防災プロジェクト

このところ毎年のように日本各地で起こる自然災害のニュースが目に入ります。地震や台風、豪雨などによる被害は、他人ごとではありません。自然災害は、いつ誰に起こってもおかしくないものです。1995年1月17日阪神・淡路大震災が起こり、死者6,400人を超える甚大な被害がありました。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災では20,000人近い死者、行方不明者がおられます。地震が多く発生する日本。世界の地震の約2割は日本の周辺で起きているといいます。日頃から準備をしておくことが大切です。今回は、各町で行われている防災への取り組みを紹介します。

東本町総自治会ではコロナ禍の中、令和3年度東本町地区非常災害時・避難訓練を実施しました。

1. 実施日時 11月14日(日)8:30~9:45
2. 模擬災害発生発災時刻
11月14日(日)8:30 想定震度6弱
3. 模擬災害発生告知 防災情報告知放送システムの戸別受信機にて一斉通知
4. 集合場所 東近江大風会館
(指定避難場所)
5. 避難訓練参加者
総数135名 内：子ども14名



- ・地震発災後の避難行動要支援者の安否確認、報告を実施して、実践に即応した訓練となりました。(写真①)
- ・避難テントの設営を避難者で実施しました。
- ・東本町総自治会保有の全ての防災資機材を展示し、使い方や今後の購入計画などを説明しました。(写真②)
- ・新しくなった東近江市の防災マップについて、ポイントとなる項目を東近江市防災危機管理課より説明してもらい理解を深めることができました。その後、活発な意見交換ができました。(写真③)
- ・家族での参加が多く、日頃より防災への関心が高いと感じました。

非常災害時・避難訓練については繰り返しの訓練のため、今後も年一度を目標に実施していきたいと考えています。

八日市清水町自治会 防災に関して

- ①11月の第3日曜日を「清水町自治会防災の日」としています。
今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため避難訓練はせず、防災委員による各戸の安否確認訓練のみを実施しました。
- ②8月14日の大雨時、清水2丁目に「土砂災害警戒情報」が発令され、その対応について課題が明らかになり、解決に取り組みました。
- ③清水会館にAEDを設置しました。

浜野総自治会では防災訓練として、昨年11月14日に、地震災害を想定して1次避難場所で避難訓練及び安否確認を行いました。

例年その後に2次避難場所や浜野会館に移動して、消防署や消防団、東近江市防災危機管理課の方から、実技を交えた防災講習を受けていましたが、ここ2年は新型コロナウイルス予防対策のため、やむなく安否確認のみを行いました。

昨年度には防災機器として発電機を購入し、停電時の備えとしています。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、避難訓練等を中止された総自治会があります。

まちづくり協議会防災プロジェクトの活動は

地震、風・水害、火災などによる大規模災害に強い地域づくりは喫緊の課題となっており、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、八日市地区の防災ネットワークの拠点（情報交換の場）として発信・活動します。

防災プロジェクトは

八日市地区自治会連合会が主体になって構成し、各総自治会で設置されている自主防災組織の代表と八日市地区内の防災士が構成員となります。自主防災組織が未設置の総自治会については、総自治会からの代表者を選出していただいています。

知っていますか？国道421号に機関車が走っていたことを

コミセンに展示されている「八日市ふるさと絵屏風」に描かれている湖南鉄道飛行場線は、沖野にあった飛行場に人や物資を運ぶため、新八日市駅から東本町の王将付近を經由し、札の辻まで走っていました。新八日市駅を出発すると八日市郵便局付近に八日市中野駅、王将の交差点付近に川合寺駅、終点の札の辻付近に御園駅（飛行場駅）がありました。現在、その廃線跡は国道421号と東本町の井田歯科東診療所横の自転車道路に姿を変えています。東本町総合自治会では毎年、春と秋に廃線跡の自転車道路の清掃作業を行い、周囲に植えられた桜並木の保全をされています。まち協では、健康増進や地域の歴史や魅力の再発見に「八日市ふるさと絵屏風」のウォーキングマップを検討中です。これから暖かくなったら、当時を偲んでウォーキングなどいかがですか？



線路跡に植えられた桜並木

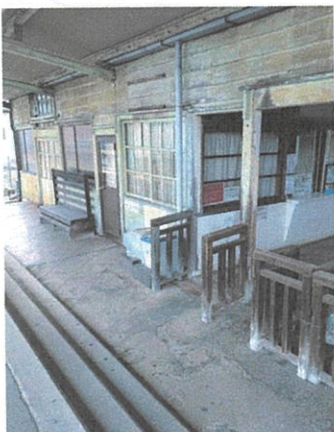
山下勝司



新八日市駅からスイッチバックで分岐した飛行場線は、近江鉄道貴生川方面行を立体交差する必要があり、マンボと呼んでいた築堤がありました。

八日市中野駅は、現在の八日市郵便局の西側にありました。昭和40年頃、16m道路と呼んでいた大きな道（後の国道421号）の工事が始まりました。

昭和40年頃には、飛行場線の線路も川合寺駅もすでに無く、八風街道を平面交差で横断する線路だけが残っていました。



新八日市駅のレトロな木製の改札口。かつて待合室には売店もありました。

2月5日にウォーキングマップ作成の下見を行い、まずは湖南鉄道飛行場線の廃線跡を歩いてみました。（飛行場線敷設当時、湖南鉄道は八日市鉄道に譲渡されていたので、正確には八日市鉄道飛行場線です。）

八日市駅を起点にして本町通りを經由し、清水町を経て新八日市駅へ。レトロな駅舎を堪能し、いよいよ廃線跡をたどりました。廃線跡の築堤をマンボと呼んでいましたが、マンボはもともと手掘り等で造られた短いトンネルのことらしいです。実際近江鉄道本線を挟んで2ヶ所にトンネルがあり、子どものころはトンネルの中で声が反響するのが面白くてよく遊びました。

マンボが近江鉄道本線を立体交差する部分は鉄橋でしたが、昭和40年頃にはすでに撤去され、鉄橋があった端から下を通過する電車を眺めていた記憶があります。マンボは東側も続いてはいたはずなのですが、私のテリトリーはここまででした。ただ、前述したように東側のマンボにあったトンネルだけは何度も行きました。この日の下見は御代参街道を戻り終了しました。御代参街道には街道の分岐に道しるべがあり、これらをたどるウォーキングも面白そうです。

中島俊治

八日市を南北に直交する道筋は「御代参街道(ごだいさんかいどう)」と呼ばれる総延長36kmの脇街道である。その内約8kmが旧八日市市を通っている。名神黒丸PA付近で旧八日市市に入り、今堀町、今崎町、中野町を北進し、栄町通り出口で八風街道と交差する。その後、本町通りを抜け、浜野通りを通過して、建部竹鼻、建部下野経由で五個荘小幡町に達する。

御代参街道の名称は、江戸時代中頃に、京の公卿たちの間で伊勢神宮代参の帰りに多賀大社にも参詣する風習が起こり、その際に利用する道としてこう呼ばれるようになった。

しかし、この道に関する最も古い名称は江戸中期の文書に北国街道安越とある。また、愛知川や小幡の市場商人が八日市や日野の商人との取引に使用した要路であったので市道(いちみち)とも、伊勢神宮や多賀大社に利用されたことから伊勢道(いせみち)、多賀道(たがみち)とも呼ばれていた。

明治4年5月。現在はひっそりとした道となっている御代参街道に人の往来が絶えなかった頃。廃藩置県の混乱が続く中、八日市を未曾有の災難が襲った。

5月18日夜五ツ時(午後8時)頃出火、台風による折からの東南の強風にあおられて、「八日市焼け」と云われる大火が発生した。さすがの劫火も一切を一晩中燃え尽くした後、翌朝辰之時(午前8時)頃には鎮火。火元は金屋村130番の指物師「指清」田中清右衛門と伝わる。出火原因は、出火時刻から見て、夕食準備の火が、家業の建具業から発生するおがくずに燃え移ったものと推定される。

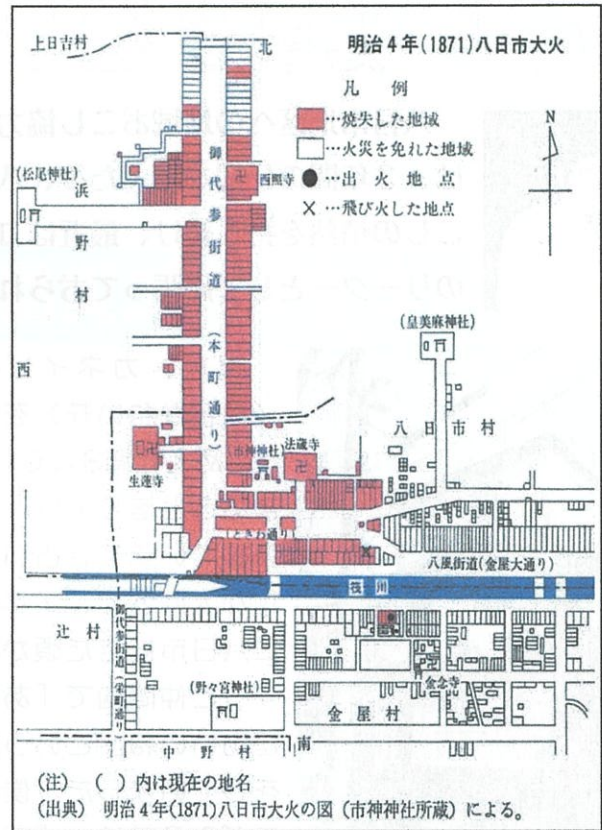
焼失家屋は、金屋村では火元を含む5軒のみであったが、風下の八日市村では筏川を越えて、ときわ通りと本町通り沿い全ての123軒、さらに浜野村では本町通り沿いの全てと、他にも浜野通り沿いに西照寺までのほぼ全ての138軒を焼失した。

火元とされている金屋村130番は現在では存在しない。明治4年の八日市大火図の当該地を精査すると、筏川沿いの小路の関係が良く残り、

あれやこれや

(其の十八)

八日市焼けの巻



火元が松ノ小路を筏川沿いに上流へ数軒目であることが判明する。

折しも展開中の「廃藩置県」と時間軸を合わせると、

- 明治元年4月 大津県の設置、彦根県の設置、仙台藩を大津県が接收
- 明治4年5月 八日市焼け
- 明治4年11月 北部7郡を長浜県、南部7郡を大津県に統合
- 明治5年9月 滋賀県に統合

会津藩金屋村は大津県に属し、八日市村と浜野村は彦根県に属しており、所属が異なっていた。被害届の提出先も曖昧な時代であったが、支援(米一人3合/日、貸付金5両/軒)は実施された。(当時は貨幣の「円」への切り替えが進んでおらず、「両」が用いられていた。)

※聖徳中生徒作成の「筏の流れ3」、関司睦三良氏作成の大正時代の家並み図、及び公共新報の「住宅案内図」を参考資料として使用しました。

森野吉雄さん寄稿

古い建物をリノベーション



八日市地区への地域おこし協力隊員の第1号として7年前に着任された北浦耀司さんは、3年間の任期を終えた後、八日市に定住し結婚されました。彼は今も当初の地域おこしの情熱を持ち続け、最近はコミセン近くの古い建物を友達と共に改造し、グループのリーダーとして頑張っておられます。その北浦さんに聞いてみました。☞高村 修☞



旧かねい荘

現在、カネイビル（旧名かねい荘）を僕を含めて仲間3人で1棟まるごと借り上げ、改装しています。古い建物が大好きで、7年前に八日市にきた頃からずっと仲間内で「あの建物いいね」という話をしていました。僕たちが入る前は、「おばけ屋敷やん」というくらい（当時住んでた人ごめんなさい）おどろおどろしい雰囲気があり、僕たちでも入るのはためらうほどでした。それでも1年ほど前にあるご縁でお借りすることができました。

合計11部屋、風呂無し、トイレは共同の古いアパートです。3人がそれぞれの階を担当し、業者はなるべく入れず、自分たちの手で直しています。綺麗になりすぎて



改装前の様子

建物の魅力がなくなるし、でもある程度手を入れないと怖くて入れません。そんなことをさぐりながら少しずつ直しています。

建物自体は店舗やアトリエとして活用していきます。1階は飲食店、2階は店舗や事務所、3階はアトリエになり、借り手も集まりほぼ満室です。現在は1階には創作いなり寿司を出す「たか翔」というお店が営業しており、2階にはコーヒー豆と本のお店が営業しています。3階はアーティストが創作活動をしています。まだ改装中の部屋も多く、これからオープンするお店もあります。



コーヒー豆と本のお店

入ってる人たちはいくつかの仕事をこなしている人も多くいます。コロナ禍もあり、昔のようにレールがない今の時代で、いくつか稼ぐ手段を得る「複業」というワークスタイル。またそんな人たちで時に企画やプロジェクトを「協働」する、そんな場所になればいいと思っています。

☞北浦耀司さん寄稿

片言隻句

昨年末から新型コロナウイルス・オミクロン株の感染増加とともに新年を迎えてから、早くも一年の四分一が過ぎ去ろうとしています。お正月にはお餅のお雑煮を家族で味わい、鏡餅でぜんざいを食したことと思います。

お餅の種類や食べ方は、草餅、豆餅、海苔餅、あんこ餅、あべかわなどなど多種多様です。さらにピザのトッピングなど料理にも使われます。皆さんはどのような食べ方が好きですか。

お餅は古来から日本人とは切り離せない「ハレ」の食べものです。お正月、お雛祭り、端午の節句などや祝い事でお餅をつき、無病息災・五穀豊稔を祈願します。また、少し年代を遡ると、住宅の棟上げ祝いの時に「餅まき」が行なわれたことを知る人もいると思います。

最近はお袋・個装で店頭にあり、身近なものになってきましたので、自分好みの食べ方を見つけてください。

コロナ禍も、お餅のような粘り腰で上手にすり抜けて、早い終息を願うばかりです。

☞高嶋芳紀



編集
発行

八日市地区まちづくり協議会 八日市コミュニティセンター内
IP電話 050-8034-1141 電話・FAX 23-4120
E-mail 8comi920@e-omi.ne.jp



Instagram



LINE



Facebook

